

「JOBカフェOSAKA」
企画担当コーディネーター

いいだ りゅういち

飯田 竜一 さん



プロフィール

1978年、東京都生まれ。上智大学在学中にNPO団体のスタッフとして、学生が働くインターンシップ開拓などに従事。自身もトルコの旅行会社でインターンシップを経験する。01年、株式会社リクルードに入社し、人材サービス部門で中小企業、ベンチャー企業への人材採用の提案を担当。03年以降は、若者就職支援事業の合同企業説明会や、ビジネスインターンシップ、若年セミナーなどの企画、実施を担当した。04年5月から「JOBカフェOSAKA」企画担当コーディネーター。



「JOBカフェOSAKA」にて

仕事をやりながら課題を乗り越えれば、 やりたいことに近づけます。

大阪府中央区の地下鉄谷町線・天満橋駅近くに、7月1日ユニークな就職支援施設がオープンした。その名は「JOBカフェOSAKA」。15歳から34歳の若者のための「シゴト探しの場」だ。

大阪府立労働センター(エル・おおさか)2階。受付近くにラウンジがあり、ソフトドリンクの無料サービスを受けながら、求人誌や情報誌の閲覧が出来る。後方にはパソコンデスクが並び、インターネット検索をする若者が目立つ。この「JOBカフェOSAKA」でイベントや広告・告知、館内のインテリアから広報までこなしているのが、企画担当コーディネーターの飯田さんである。

飯田さんによると、プロの専任アドバイザーが、個別相談に乗ってくれるのも、この特徴。就職活動を始める人向けの「就職スタートアップセミナー」や「自分発見・適職発見テスト」など、ここならではのセミナーやイベントが目白押し。エリア内に職業紹介の「ハローワークJOBカフェ」を併設するなど、相談体制が充実している施設となっている。

ここで、「JOBカフェOSAKA」が生

まれた背景を簡単におさらいすると。近年、若者の失業率が2003年平均で10.1%と過去最悪を記録するなど上昇傾向にある。加えて学生でもなく職業訓練も受けていない無業者(ニート)や、フリーター(アルバイトやパート従事者)が増加していること。加えて、学校卒業者の高い離職率(中卒7割、高卒5割、大卒3割=就職後3年以内)も社会問題化している。こうした状況を打破するための国のプランが、民間を活用して雇用関連サービスを1ヶ所で提供する「ワンストップサービスセンター(通称ジョブカフェ)」構想。都道府県も連携し、大阪や北海道、沖縄など15地域にモデル施設「JOBカフェ～」が設置された、というわけだ。

飯田さんはいう。「確かに、企業側は必要最小限の採用しかしなくなった。一方、採用される側は職種が多様化し、働く形態が派遣やアルバイトなど不安定になっていて、自分がどういう仕事をしていいのか分からなくなっています」と。それが、若者の失業率を高め、フリーターや無業者を増やしているのだ。

子どものころ飯田さんは「人の役に立ちたかった」ので、お医者さんにあこがれたが、高校時代に「これからは働くライフスタイルの中で、学ぶ機会を持ち続けることが大事な要素になる」と、職業教育に興味を持つようになった。大学(教育学科)で生涯教育を専攻したのも「働く事をテーマに、人生を考えていく」ことを目指したためだ。

卒業後は「自分もしっかり仕事をしながら、人の成長や育成にかかわれる企業」を希望し、就職。そして今、JOBカフェOSAKAのスタッフとして「企業も採用される側戸惑っている時代」の最前線に立つ。

そんな飯田さんが、若者に語りかける言葉がある。「やりたいことが分からないと言う人は多いんです」と前置きして「やっぱり仕事をやりながら、目の前の課題を乗り越えていく。それで初めて、やりたいことにどんどん近づいていくのではないのでしょうか」と。

編集部注
ニート=NEET Not in Employment, Education or Trainingの略

(文・脇本勤 / 写真・高島悠介)